

## “なる”ことから「科学する心」を耕す 大和郡山市立片桐西幼稚園（奈良県大和郡山市） [3～5歳]

活発に模倣遊びを楽しむ子どもが、自分ではない何かに“なる”姿から、「科学する心」を捉える。

### 場面1 自分が見たもの、触れたものなど、自分が出会った生き物に“なる”

#### 【トンボになる】

腕を広げてトンボになる「トンボって、速く飛ぶな。トンボのように私は速く飛べない」などと、出会った生き物に体を通して“なる”ことで、生き物の生態に気付いたり特徴を表したりする。

### 場面2 「周りはどう見ているのか（認識しているのか）」を感じ取り、“なっている”自分を確認する

#### 【忍者になって、3歳児や5歳児の前を走り抜ける4歳児】

忍者になりきった4歳A児は、3歳児の保育室を、すーと消える忍者のように通り過ぎる。その時「あっ忍者や」と3歳児のつぶやきを聞き、忍者に見えたことを感じて自信を得たA児は、5歳児保育室も同様に通り過ぎる。

A児は「あっ 忍者してる」という5歳児の反応を感じることで、周りの“ヒト”が忍者に“なる”自分をどう認識しているのか確認している。

また、この時、3歳児は「忍者が通った」と捉え、5歳児は「A君が忍者になっている」と捉えている。ものの見方や発達の違いを把握できた。



#### 【外見の特徴から「これで忍者」、「なる」対象に近づく言動を探索し「これが忍者!】

3歳児は風呂敷を忍者頭巾にし、4歳児は自分で考えた画用紙や新聞を忍者頭巾にし、「これで忍者!」となりきっている。5歳児は忍者としての技を磨き、心と体の強さがあることで「これが忍者!」と言えるようになることに夢中になっている。発達や興味に応じて“なる”対象をよく知り、近づくための工夫や探索が見られる。



3歳児



4歳児

これで忍者!

これが忍者!



5歳児

### 場面3 “なる”ことで、できない自分を意識したり、できるように試行錯誤したりする

#### 【縄跳びのできない子が、縄跳びの技を考えて友達のために自分が縄を回すことで、跳べるようになる】

前跳びができないB児は、縄の端を持って回りながら周りの子どもが跳べるようにする「時計回しの技」を考え出す。縄を回しながら、跳んでいる友達の様子を見たり、跳ぶタイミングを教えたりすることで、B児は前跳びのタイミングを自分のものとし、跳べるようになる。



#### 【風の体験を生かして手裏剣を遠くに投げる】



「足、広げた方が飛ぶよ」「声、出した方が飛ぶ!」などと、どうすれば遠くへ飛ぶのかを試行錯誤している。滑り台の上から投げたり、「風吹いたら飛ばしたらいい」と考え、風が吹くと一斉に「エイ」と手裏剣を飛ばしたりする。



関連事例 P38